

窯垣の小径資料館

窯垣の小径資料館は、明治初期の建築の本業焼の窯元の屋敷を改修したものである。この資料館の見どころは、窯道具を使つたカマドや浴室の床と腰壁に張られた「本業タイル」、離れにある本業タイルと染付便器で彩られた廁（トイレ）である。

開館時間 午前11時～午後3時

休館日 月～水曜日・年末年始

（祝日は開館）



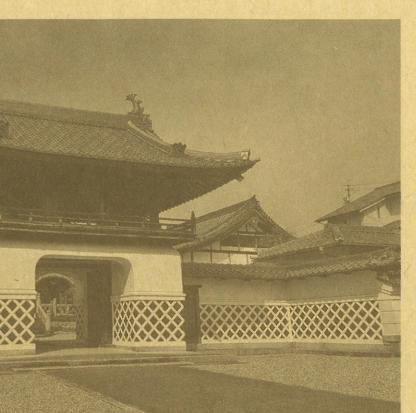
浴室に貼られた本業タイル

本業タイル

「本業タイル」とは、日本の量産タイルの源流ともいえるもので、陶器質の素地に磁器質の化粧土を塗つて仕上げ、銅版転写などで絵付をしたタイルで、明治・大正とその生産は全盛を迎えた。



本業タイル



宝泉寺山門

宝泉寺

この杜は、明治時代から昭和前期まで稼働した巨大な登窯「奥洞窯」を中心に数軒の窯屋が操業した企業集積地であった。ここでは、洞のベストセラー製品の石皿、馬の目皿、本業タイル、すり鉢、かめなどがつくられていた。現在は里山林となつた杜を往時を偲びながら散策できる。

窯跡の杜

約750年前に創建された曹洞宗の寺で、本尊は釈迦如来、脇侍に陶質十六羅漢（市指定文化財）を祀る。瀬戸の陶工の作といわれる本堂天井絵や竜宮様式の山門も見どころである。

王子窯モロ（市指定文化財）

※「モロ」は瀬戸の方言でやきものの工場を指す。

王子窯モロは、本業焼（陶器）生産の工房建物である。明治33（1900）の建造で、木造二階建て、間口二十間、奥行六間と東西に細長く、一般的なモロと比べて大きい。内部は厚い土壁をめぐらし、南西の四ヶ所に小窓がつくのみで室内の乾燥を防ぐためのモロの典型的な造りとなっている。一階で成形、二階で半製品（焼成前製品）の施釉・乾燥・保管を行い、焼成を行う登窯までを機械的につなげる工夫がなされており、瀬戸市内のモロでは最古級で、残されている貴重な窯業機械・道具とともに文化財としての価値を有している。

また、瀬戸の風景を特徴づけた重油窯の煙突もあり、かつて窯業生産で活況を呈した当時の姿を偲ぶことができる。

連絡先 0561-21-2646（要予約）



王子窯モロ

瀬戸・ものづくりと暮らしのミュージアム「瀬戸民藝館」

現役の窯元である瀬戸本業窯のものづくりの源流となっている、江戸時代後期（19世紀）から昭和時代前期（20世紀半ば）の器と、大型の登窯「洞本業窯」が展示されているミュージアム。併設の工藝ショップでは、瀬戸本業窯の製品のほか、ガラス、染織、木工、わら細工など全国のつくり手の作品が並ぶ。

入館料 一般600円 高校生以下300円
営業時間 午前10時～午後4時30分（午後4時最終受付）
定休日 月火水（祝日は営業）
連絡先 0561-21-3773

窯垣の小径資料館は、明治初期の建築の本業焼の窯元の屋敷を改修したものである。

この資料館の見どころは、窯道具を使つたカマドや浴室の床と腰壁に張られた「本業タイル」、離れにある本業タイルと染付便器で彩られた廁（トイレ）である。

開館時間 午前11時～午後3時

休館日 月～水曜日・年末年始

（祝日は開館）

王子窯モロ（市指定文化財）

※「モロ」は瀬戸の方言でやきものの工場を指す。

王子窯モロは、本業焼（陶器）生産の工房建物である。明治33（1900）の建造で、木造二階建て、間口二十間、奥行六間と東西に細長く、一般的なモロと比べて大きい。内部は厚い土壁をめぐらし、南西の四ヶ所に小窓がつくのみで室内の乾燥を防ぐためのモロの典型的な造りとなっている。一階で成形、二階で半製品（焼成前製品）の施釉・乾燥・保管を行い、焼成を行う登窯までを機械的につなげる工夫がなされており、瀬戸市内のモロでは最古級で、残されている貴重な窯業機械・道具とともに文化財としての価値を有している。

また、瀬戸の風景を特徴づけた重油窯の煙突もあり、かつて窯業生産で活況を呈した当時の姿を偲ぶことができる。

連絡先 0561-21-2646（要予約）



王子窯モロ

窯垣の小径資料館は、明治初期の建築の本業焼の窯元の屋敷を改修したものである。

この資料館の見どころは、窯道具を使つたカマドや浴室の床と腰壁に張られた「本業タイル」、離れにある本業タイルと染付便器で彩られた廁（トイレ）である。

開館時間 午前11時～午後3時

休館日 月～水曜日・年末年始

（祝日は開館）

王子窯モロ（市指定文化財）

※「モロ」は瀬戸の方言でやきものの工場を指す。

王子窯モロは、本業焼（陶器）生産の工房建物である。明治33（1900）の建造で、木造二階建て、間口二十間、奥行六間と東西に細長く、一般的なモロと比べて大きい。内部は厚い土壁をめぐらし、南西の四ヶ所に小窓がつくのみで室内の乾燥を防ぐためのモロの典型的な造りとなっている。一階で成形、二階で半製品（焼成前製品）の施釉・乾燥・保管を行い、焼成を行う登窯までを機械的につなげる工夫がなされており、瀬戸市内のモロでは最古級で、残されている貴重な窯業機械・道具とともに文化財としての価値を有している。

また、瀬戸の風景を特徴づけた重油窯の煙突もあり、かつて窯業生産で活況を呈した当時の姿を偲ぶことができる。

連絡先 0561-21-2646（要予約）



王子窯モロ

窯垣の小径資料館は、明治初期の建築の本業焼の窯元の屋敷を改修したものである。

この資料館の見どころは、窯道具を使つたカマドや浴室の床と腰壁に張られた「本業タイル」、離れにある本業タイルと染付便器で彩られた廁（トイレ）である。

開館時間 午前11時～午後3時

休館日 月～水曜日・年末年始

（祝日は開館）

王子窯モロ（市指定文化財）

※「モロ」は瀬戸の方言でやきものの工場を指す。

王子窯モロは、本業焼（陶器）生産の工房建物である。明治33（1900）の建造で、木造二階建て、間口二十間、奥行六間と東西に細長く、一般的なモロと比べて大きい。内部は厚い土壁をめぐらし、南西の四ヶ所に小窓がつくのみで室内の乾燥を防ぐためのモロの典型的な造りとなっている。一階で成形、二階で半製品（焼成前製品）の施釉・乾燥・保管を行い、焼成を行う登窯までを機械的につなげる工夫がなされており、瀬戸市内のモロでは最古級で、残されている貴重な窯業機械・道具とともに文化財としての価値を有している。

また、瀬戸の風景を特徴づけた重油窯の煙突もあり、かつて窯業生産で活況を呈した当時の姿を偲ぶことができる。

連絡先 0561-21-2646（要予約）



王子窯モロ

窯垣の小径資料館は、明治初期の建築の本業焼の窯元の屋敷を改修したものである。

この資料館の見どころは、窯道具を使つたカマドや浴室の床と腰壁に張られた「本業タイル」、離れにある本業タイルと染付便器で彩られた廁（トイレ）である。

開館時間 午前11時～午後3時

休館日 月～水曜日・年末年始

（祝日は開館）

王子窯モロ（市指定文化財）

※「モロ」は瀬戸の方言でやきものの工場を指す。

王子窯モロは、本業焼（陶器）生産の工房建物である。明治33（1900）の建造で、木造二階建て、間口二十間、奥行六間と東西に細長く、一般的なモロと比べて大きい。内部は厚い土壁をめぐらし、南西の四ヶ所に小窓がつくのみで室内の乾燥を防ぐためのモロの典型的な造りとなっている。一階で成形、二階で半製品（焼成前製品）の施釉・乾燥・保管を行い、焼成を行う登窯までを機械的につなげる工夫がなされており、瀬戸市内のモロでは最古級で、残されている貴重な窯業機械・道具とともに文化財としての価値を有している。

また、瀬戸の風景を特徴づけた重油窯の煙突もあり、かつて窯業生産で活況を呈した当時の姿を偲ぶことができる。

連絡先 0561-21-2646（要予約）



王子窯モロ

窯垣の小径資料館は、明治初期の建築の本業焼の窯元の屋敷を改修したものである。

この資料館の見どころは、窯道具を使つたカマドや浴室の床と腰壁に張られた「本業タイル」、離れにある本業タイルと染付便器で彩られた廁（トイレ）である。

開館時間 午前11時～午後3時

休館日 月～水曜日・年末年始

（祝日は開館）

王子窯モロ（市指定文化財）

※「モロ」は瀬戸の方言でやきものの工場を指す。

王子窯モロは、本業焼（陶器）生産の工房建物である。明治33（1900）の建造で、木造二階建て、間口二十間、奥行六間と東西に細長く、一般的なモロと比べて大きい。内部は厚い土壁をめぐらし、南西の四ヶ所に小窓がつくのみで室内の乾燥を防ぐためのモロの典型的な造りとなっている。一階で成形、二階で半製品（焼成前製品）の施釉・乾燥・保管を行い、焼成を行う登窯までを機械的につなげる工夫がなされており、瀬戸市内のモロでは最古級で、残されている貴重な窯業機械・道具とともに文化財としての価値を有している。

また、瀬戸の風景を特徴づけた重油窯の煙突もあり、かつて窯業生産で活況を呈した当時の姿を偲ぶことができる。

連絡先 0561-21-2646（要予約）



王子窯モロ

窯垣の小径資料館は、明治初期の建築の本業焼の窯元の屋敷を改修したものである。

この資料館の見どころは、窯道具を使つたカマドや浴室の床と腰壁に張られた「本業タイル」、離れにある本業タイルと染付便器で彩られた廁（トイレ）である。

開館時間 午前11時～午後3時

休館日 月～水曜日・年末年始

（祝日は開館）

王子窯モロ（市指定文化財）

※「モロ」は瀬戸の方言でやきものの工場を指す。

王子窯モロは、本業焼（陶器）生産の工房建物である。明治33（1900）の建造で、木造二階建て、間口二十間、奥行六間と東西に細長く、一般的なモロと比べて大きい。内部は厚い土壁をめぐらし、南西の四ヶ所に小窓がつくのみで室内の乾燥を防ぐためのモロの典型的な造りとなっている。一階で成形、二階で半製品（焼成前製品）の施釉・乾燥・保管を行い、焼成を行う登窯までを機械的につなげる工夫がなされており、瀬戸市内のモロでは最古級で、残されている貴重な窯業機械・道具とともに文化財としての価値を有している。

また、瀬戸の風景を特徴づけた重油窯の煙突もあり、かつて窯業生産で活況を呈した当時の姿を偲ぶことができる。

連絡先 0561-21-2646（要予約）



王子窯モロ

窯垣の小径資料館は、明治初期の建築の本業焼の窯元の屋敷を改修したものである。

この資料館の見どころは、窯道具を使つたカマドや浴室の床と腰壁に張られた「本業タイル」、離れにある本業タイルと染付便器で彩られた廁（トイレ）である。

開館時間 午前11時～午後3時

休館日 月～水曜日・年末年始

（祝日は開館）

王子窯モロ（市指定文化財）

※「モロ」は瀬戸の方言でやきものの工場を指す。

王子窯モロは、本業焼（陶器）生産の工房建物である。明治33（1900）の建造で、木造二階建て、間口二十間、奥行六間と東西に細長く、一般的なモロと比べて大きい。内部は厚い土壁をめぐらし、南西の四ヶ所に小窓がつくのみで室内の乾燥を防ぐためのモロの典型的な造りとなっている。一階で成形、二階で半製品（焼成前製品）の施釉・乾燥・保管を行い、焼成を行う登窯までを機械的につなげる工夫がなされており、瀬戸市内のモロでは最古級で、残されている貴重な窯業機械・道具とともに文化財としての価値を有している。

また、瀬戸の風景を特徴づけた重油窯の煙突もあり、かつて窯業生産で活況を呈した当時の姿を偲ぶことができる。

連絡先 0561-21-2646（要予約）

</